

◀ 今日の主なニュース ▶

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆政府、景気判断「緩やかに回復」維持 5月の月例経済報告

・政府は5月の月例経済報告を発表。国内の景気判断は「緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある」との表現を3カ月連続で維持。企業収益は「改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある」と3カ月ぶりに表現を変えた。4月は「米国の通商政策の影響が残るものの、改善の動きがみられる」としていた。

◆電気・都市ガス代補助に予備費5135億円、政府が支出決定

・政府は中東混乱によるエネルギー高に対応するため2026年度予算の予備費から5135億円を支出することを決めた。7～9月の電気・都市ガス代の補助にあてる。標準家庭では3カ月で計5111円の負担軽減を見込む。経済産業省の説明によると、家庭向けの電気代の補助は7月と9月に1キロワット時あたり3.5円、8月に4.5円となる。

◆企業評価は人材・設備への投資も重視 経産省が指針、還元傾斜に一石

・経済産業省は投資家が企業価値を評価する際の新たな指針を打ち出す。尺度として定着している自己資本利益率(ROE)に加え、人材や設備などにあてる成長投資の多寡を重視。株主還元には偏りすぎないように促す狙い。新指針はEPと呼ぶ価値創造の指標の重視をかかげる。

◀ 業界ニュース ▶

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆「省エネ給湯機普及促進会議」設立 関係24団体・省庁が連携

・ガス石油省エネ給湯機の普及を推進する給湯機メーカーやエネルギー事業者、住宅などの関係団体24団体は関係省庁との連携により「ガス石油省エネ給湯機普及促進会議」(通称:スマいる給湯プロジェクト)を設立。「2050年カーボンニュートラル」の実現と温室効果ガス削減目標達成に向け省エネ給湯機を市場75%への普及とスタンダード化を目指す。

◆4月のエアコン出荷額が過去最高 省エネ基準上昇前の駆け込み需要で

・日本電機工業会は4月のエアコンの出荷額が前年同月比34.1%増の1002億円だったと発表。4月としては過去最高。エアコンの省エネ基準が2027年に上がる前に安価な製品を求める買い替え需要があった。エアコンの出荷台数は29.5%増の102万9000台だった。東京都の省エネ家電補助金制度「東京ゼロエミポイント」を利用して購入する人が多かった。

◆4月の工作機械受注45%増 国内で上向き傾向、DC関連が寄与

・日本工作機械工業会が発表した4月の工作機械受注額(確報値)は、前年同月比45%増の1889億円。プラスは10カ月連続。データセンター関連の投資が受注を押し上げ。国内受注は43%増の492億円で、4カ月連続のプラス。データセンター関連で予備電源や冷却装置の循環ポンプ、バルブなどの加工需要などが寄与した。

◀ 注目商品 ▶

■ミラタップ、外観と調和する布団干しバー

・ベランダのない都市部の狭小住宅など布団を外に干す場所を確保しにくい住宅向けに開発した布団干しバー。窓下に取り付けることで限られたスペースでも効率的に布団が干せる。布団が滑りにくいスクエア形状で、窓下に取り付けても外観を損なわないシンプルなデザイン。



■パナソニックAWエンジニアリング、独立トイレユニットの上位モデル

・従来の3点式ユニットと同じスペースで、シャワーとトイレを分離し、独立トイレルームを実現できるユニットの上位モデルを発売。上位モデルは壁柄を拡充。モトーン系(Black、Gray、White)の上質なカラーコーディネートが可能。



■パロマ ウルトラファインバブル給湯器にオートタイプ追加

・ウルトラファインバブル発生装置を内蔵した給湯器「BRIGHTS GRAND(ブライツグランド)」シリーズに「オートタイプ」を追加。直径1μm未満の泡・ウルトラファインバブル発生で、メイク汚れの除去、肌の水分量の向上、あたたかさの持続、排水管内の汚れや水アカの蓄積抑制。

